

校訓	盡 己	令和7年度学校通信 「松中だより」 第4号	発行日	令和7年5月28日
教育目標	未来を創造し、たくましく生きる生徒の育成 成へ地域・家庭とのつながりによる レジリエントな学校を目指して～		発行者	伊丹市立松崎中学校 校長 今井 克己

【社会性と情動（感情・心）の学び SEL について】

今年度の学校教育目標や重点項目を松中だより第2号でお知らせいたしました。教育実践の重点として昨年度に引き続き「自律と主体性を育む教育を推進する」とあわせて、今年度は「社会性と情動（感情・心）の学びに取り組む」ことをあげています。この「社会性と情動（感情・心）の学び（Social and Emotional Learning）」についてお伝えします。

今、日本の多くの学校で不登校やいじめなどが問題となっています。本校においても、自分の感情を上手く表現できなかつたり、コントロールできなかつたり、他人の気持ちに気づけなかつたり、対人関係を上手く築けなかつたりすることに起因するトラブルが起こっています。また、これから生徒たちが生きていく社会は学力や運動能力など、数字ではかる事のできる力だけでなく、コミュニケーション力や創造力、問題解決力など、いわゆる人間力が大切になってくると言われています。

本校では、クラスや学年、学校全体で、安心と信頼関係を基盤とした学習環境を作り上げることを目的に「社会性と情動（感情・心）の学び」に取り組みます。

具体的には特別なプログラムにとりくむ事もありますが、普段の授業をはじめとする教育活動をSELの視点で捉え、実践していくことになります。

どうぞ、よろしくお願いします



「社会性と情動（感情・心）の学び」は次の5つの社会的能力をつけることを柱としています。

1	自己理解力	自分自身の感情や能力について理解する力
2	他者理解力	他人の感情や立場を理解し、多様な人がいることを認識できる力
3	自己コントロール力	目標達成に向けて自分をコントロールし、失敗や挫折を乗り越えて取り組もうとする力
4	対人関係構築力	周囲との人間関係において、健全で協力的な関係を築き、維持する力
5	意思決定力	選択肢を吟味し、他者の考えを尊重しつつ、責任を持って自己決定する力

【連続テレビ小説（朝ドラ）「おしん」】

「おしん」というドラマをご存じでしょうか？ 1983年、NHK朝の連続テレビ小説として放送され、社会現象になった、橋田壽賀子さんの名作です。明治の頃、山形県の寒村に生まれ、口減らしのために奉公に行き、苦難を強いられても決して負けることなく大正、昭和と生きるおしんの姿は、日本全国に旋風を巻き起こし、テレビドラマの歴代最高視聴率となる、平均52.6%、最高視聴率62.9%という驚異の数字を記録しました。さらに、これまで世界68の国と地域でも放送され、国境を越えて人々に愛されてきました。過酷な環境の奉公先から、理不尽な言いばかりで抜け出した7歳のおしん（小林綾子）が月山が見える猛吹雪の山中で出会った知識人の脱走兵、俊作（中村雅俊）との出会います。その俊作がおしんに伝えた言葉を紹介します。みなさんは何を感じますか？

おしん、お前はこれから先何十年も生きていくんだ。

いろんなことがあるだろう。

つらいこと、苦しいこと。

嫌なやつにだって会う。



だがな、決して人を恨んだり憎んだり傷つけたりしてはいけないぞ。

人を恨んだり憎んだりすれば結局自分もつらい思いをするだけなんだ。

人を傷つければそれは必ず自分も傷ついて苦しむことになる。

みんな自分に返ってくるんだ。

もしおしんが誰かを憎んだり恨みたくなった時は、憎んだり恨んだりする前に相手の気持ちになってみるんだ。

どうしてこの人は自分につらく当たるんだろう。

何か理由があるはずだ。

それに思い当たったら自分の悪いところは直す。

でも、もしおしんに悪いところもないのに相手が横車を押すようなことがあったら相手を責めずに憐れんでやれ。

理由もなくおしんをいじめる奴はきっと自分も不幸な人間に違いないんだ。

心貧しくてかわいそうな人間なんだ。

そう思って許してやれ。

わかるか？

今はわからなくても…

俺はただおしんには人を許せる人間になってほしいんだ。

人を愛することができたらきっと人にも愛される人間になれる。

そうすれば心豊かに生きてゆけるはずなんだ。

それだけは覚えておくんだな。



俺はおしんに字や算術を教えた。

でもそんなものはいくら上手になったって心が貧しければ何の役にも立たないんだ。

いくら勉強して偉くなってもそれを使う人間が駄目だったら、いくら勉強してもそれが仇になるってことだってあるんだ。